HIROSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL

広島大学病院ニュース

Hiroshima University Hospital News

No.34
2014. 10

■広島市土砂災害に対する取り組み
■インタビュー
イラストレーターの黒田征太郎さん
■気になる病院の言葉「緩和ケア」
■ニュースアップ
健康サポートフェアでAED講習会を開催
障害者カヌーの世界選手権にトレーナーとして参加
■かすみ散策スポット「石組みの枡と水路」
■お知らせ
入院棟玄関への車の進入について
診療棟屋上に日よけを設置
谷川教授が救急功労者表彰を受賞
越智教授が産学官連携功労者表彰を受賞
■催しのご案内

秋の日差しが注ぐ診療棟屋上庭園
（2014年10月17日撮影）

ご自由にお持ち帰りください。

広島大学病院

謹んで広島市大規模土砂災害のお見舞いを申し上げます

8月20日未明に発生した大規模土砂災害で広島市は未曾有の被害を受けました。
犠牲となられた皆様に、深く哀悼の意を表すると共に、被災された方、そのご家族・関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

広島市土砂災害に対する当院の取り組み

8月20日に広島市安佐南区、安佐北区を襲った土砂災害では、広島大学病院も被災された方々に対する医療支援活動に積極的に加わりました。10月15日までの主な活動状況を報告します。

DMAT（災害派遣医療チーム）の出動

8月20、21の両日、高度救命救急センターの医師、看護師と事務職員延べ11人が広島大学DMATとして現地に赴きました。20日には安佐北区の土砂災害現場で、土砂や倒木に埋まっていた住民2人が救出されるまでの間、点滴、酸素投与を続けながら脱水やクラッシュ症候群を防ぐ処置を行いました。

土砂災害現場での救命活動

災害支援ナースの派遣

広島県看護協会の要請により、11人の看護師を派遣しました。8月23日から9月2日まで、医療チームの一員として4カ所の避難所を巡回し、避難された方々の体調管理や診療の補助を行いました。

DHEAT（広島県災害時公衆衛生チーム）への派遣

薬剤師1人を8月23日夜から24日まで避難所に派遣し、医薬品の在庫管理や薬のアドバイスを行いました。

DVT（深部静脈血栓症）の検診実施

広島市の要請を受けて8月27日と9月6、7日、新潟大学、福井大学、福島県立医科大学チームと合同でエコノミークラス症候群の発症を防ぐためのDVT検診を実施しました。

広島大学病院からは脳神経内科と循環器内科の医師、臨床検査技師、診療放射線技師、看護師延べ20人が避難所を巡回。携帯エコーを用いてふくらはぎの静脈をチェックする検診を42人の方に実施しました。

エコーによる脚のDVT検診

DPAT（災害派遣精神医療チーム）への参加

広島県内の精神科医療機関でつくるネットワークによるDPAT（災害派遣精神医療チーム）のメンバーとして、9月3日から精神科医師、看護師ら4人が被災者の心のケアにあたりました。地域の保健師と連携しながら心的外傷後ストレス障害（PTSD）の発症予防や認知症の人に対するケアなど中長期的な支援に取り組んでいきます。

ゲスト・インタビュー

「描こうとする気持ちが大事」

イラストレーターの 黒田 征太郎 さん

世界的に活躍しているイラストレーターの黒田征太郎さんが8月22日、「笑顔のアートプロジェクト」の活動で当院を訪れ、入院中の子どもたちや院内保育園の園児たち約30人と一緒に絵を描きました。これまでの取り組みや子どもたちへの思いをうかがいました。

―病院で絵を描くようになったきっかけは。

40代の初めの頃、僕はテレビに出ずっぱりでした。もうマスコミに出るのをやめたいと思いだしたころ、米国で取材中に大きな交通事故を起こして入院し、車いすで日本に戻って東京の病院に通いました。体が不自由になって、それまで見えなかったものが見えたんです。病院は何か暗いなあと。

入院中の子どもたちと一緒に

―そのころは「ホスピタルアート」という言葉もありませんでしたね。

当時、出演していたラジオ番組で「病院の待合室に絵を描けたら」としゃべったら、応援したいという声が広がりました。曲折はありましたが、東大病院の協力で眼科病棟の通路の壁に羽ばたく鳥の絵を描くことができました。僕の絵を手帳に描き写していたお年寄りの女性から「この鳥の絵がほしい」といわれました。マスコミの仕事でなく、生の絵を生の声でほめられたのは初めてで、すごく感動しました。

―それから一人で全国の病院や老人ホームで絵を描く取り組みを。

患者さんと一緒に初めて絵を描いたのは、広島市の中電病院でした。僕が描いているすぐ後ろで車いすの患者さんが、色使いの良しあしについて話していました。そこで「一緒に描きません?」。看護師さんにも声を掛けたら、おずおずと色を塗ってくれました。病院に一番長くいるのは入院患者さんや看護師さんですから。

―描く時に心掛けていることはありますか。

何も考えていません。僕が元気でいないといけない。上から目線では絶対しない。一緒にやっていこう。それだけです。ややもすれば絵というものは、美術館やギャラリーで扱われる名品や高価なものがいいもので、そうでないものは落書きのように扱われます。でも、僕はそう思いません。絵はこうでないといけないとか、上手も下手もない。「絵を描こう」とする気持ちが大事なんです。そこがよく分からなくなっている大人の方たちに言っておきたい。

―広島大学病院でのイベントに参加された印象は。

元気をもらったのは僕の方。病気と闘う子どもたちを見ていたら、ほんとうに偉いなあと思います。今回、参加した子どもたちが元気に大人になって「あの時、こういうことがあったけど僕もやってみようか」と思ってくれたらこっちの勝ちです。

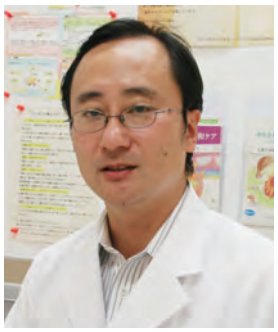
—このプロジェクトは黒田さんにとってのライフワークですか。

ライフワークという言葉は大嫌いです。僕ができることは僕がやっていることしかできない。できる限り続けていきたいなあと思っています。昼間は病院で、夜はクラブで描いてみたいなあ。

【くろだ・せいたろう】 1939年大阪市生まれ。イラストレーターとしてポスターや挿し絵で数々の賞を受賞。壁画制作、ライブペインティングなど幅広いアーティスト活動を展開している。原爆養護ホーム「倉掛のぞみ園」の壁画制作にも携わる。

気になる病院の言葉❾ 「緩和ケア」

がんなどの医療で「緩和ケア」という言葉をよく耳にします。当院にも「緩和ケアチーム」があり、「緩和ケア外来」が開設されています。一般の診療とどのように違うのか、がん治療センター（緩和ケア部門）の小早川誠医師に聞きました。



小早川誠 医師

■緩和ケアとはどんなものでしょうか。

患者さんやご家族にとって、今どんなことがしんどくて、どんなことをしてほしいかに焦点を当てた医療といえます。その人が今何を困っているか聞くことから始めます。

■医師が全ての問題に対応するのは難しいと思いますが。

精神科医や麻酔科医だけでなく看護師、ソーシャルワーカー、在宅であれば訪問看護師、ヘルパーなどそれぞれの職種にできることがあります。誰に何をやってもらうかを考え、連携しながら患者さんや家族が求めていることをカバーしていきます。

■具体的なニーズとして多いのは。

一番多いのは痛みについての悩みです。「息が苦しい」とか「食事がとれない」といった体のことだけでなく、「心配で眠れない」「家族への気遣い」「誰にも悩みを言えない」などさまざまです。

■がんの末期に受けるケアというイメージを持つ人も多いですね。

2002年に変更された世界保健機関（WHO）の定義には「疾患の早い段階から」と明記されています。疾患は「命に関わる重い病気」であれば、がんに限りません。たとえば病気が初めて分かったとき、「頭が真っ白になって、どうしていいか分からない」という人に気持ちの面で支援することも緩和ケアです。

■だれでも緩和ケアを受けられますか。

痛みや気持ちのしんどさについては、まず主治医や身近な看護師に相談することが大切です。それでも解決しない場合は私たちのところで相談していただければと思います。主治医の先生に紹介状を書いてもらい予約して来てください。

緩和ケアについてのお問い合わせは　患者支援センター　☎082−257−1525

健康サポートフェアでAED講習会を開催

広島大学病院の協力によるAED講習体験会が9月20、21の両日、広島グリーンアリーナで開かれました。「健康サポートフェア2014」の催しの一つで、多くの市民でにぎわいました。

昨年に続いて2回目の開催。広島大学病院高度救命救急センターの医師や、救命法の普及に取り組んでいる学生サークルのスタッフたち35人が参加し、人形を使いながら心肺蘇生法やAEDの使い方を市民に体験してもらいました。

2日間の来場者数は750人余り。広島市内から訪れた女性は「もしもの時に備えて、体験したいと思ってきました」と話していました。

心臓マッサージの方法を学ぶ来場者

中嶋選手のストレッチをする坂光理学療法士㊨

障害者カヌーの世界選手権にトレーナーとして参加しました

リハビリテーション部門の坂光徹彦理学療法士が8月6日から10日まで、モスクワ（ロシア）で開かれたカヌースプリント世界選手権にパラカヌー（障害者カヌー）のトレーナーとして参加しました。

パラカヌーは、下半身不随の人など身体に障害を持った方が参加する水上の競技で、2016年リオデジャネイロパラリンピックから正式種目になります。

坂光理学療法士は2種目に出場した中嶋明子選手のケアやコンディショニングを担当。各国のトレーナーとも交流を深めました。「2020年の東京パラリンピックに向け、選手をサポートできるようもっと勉強したい」と話していました。

かすみ散策スポット

石組みの枡と水路

2014年2月に完成したP1立体駐車場1階の北東角に復元保存されています。建設工事に先立って実施された発掘調査で見つかりました。枡は1.1m四方、深さ0.5m。枡と枡をつなぐ構造の水路は幅0.2 m（内寸）、深さ0.2 m。いずれも花崗岩製です。現在の広島大学霞キャンパスには戦前、広島陸軍兵器支廠の兵器庫が建ち並んでいました。石組みの枡と水路は大正後期から昭和初期にかけて利用された兵器庫の関連設備と考えられます。

病院からのお知らせ

入院棟玄関への車の進入はできません

臨床管理棟などの改修工事のため、12月初旬まで自動車・自転車は入院棟玄関前の道路を通行できません（歩行は可能です）。不便をお掛けしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

歩行者動線　仮囲い　介護車動線

診療棟屋上に日よけを設けました

ご要望に応えて診療棟屋上のテラスに日よけを設置しました。日陰のベンチで快適にお過ごしください。なお、風が強い時には自動的に収納されます。

谷川教授が救急功労者表彰（総務大臣表彰）を受賞

谷川攻一教授

救急科の谷川攻一教授が「平成26年度救急功労者表彰（総務大臣表彰）」を受賞しました。広島市消防局をはじめとする救急救命士の養成に貢献するとともに、救急業務高度化に力を尽くしたことが認められました。

越智教授が産学官連携功労者表彰（厚生労働大臣賞）を受賞

越智光夫教授

整形外科の越智光夫教授が「第12回産学官連携功労者表彰～つなげるイノベーション大賞～」の厚生労働大臣賞を受賞しました。日本発の再生医療技術として初めて保険収載された「自家培養軟骨ジャック」の開発と製品化が評価されました。

催しのご案内

（2014年10月～2015年1月）

市民公開講座

日本消化器病学会中国支部　第74回市民公開講座「おなかの健康と菌のかかわり」

11月30日（日）
13:30～16:30

座長　田妻　進（広島大学病院総合内科・総合診療科教授）

講演1　「歯周病とおなかの病気」兵庫秀幸（広島大学病院消化器・代謝内科診療講師）

講演2　「ピロリ菌の話題」伊藤公訓（広島大学病院消化器・代謝内科診療准教授）

講演3　「腸内細菌と乳酸菌」野田正文（広島大学大学院 医歯薬保健学研究院特任講師）

場所：広島国際会議場フェニックスホール　お問い合わせ：広島大学病院総合内科・総合診療科 ☎082−257−5461

がん治療を支える患者サロン

場所：広仁会館1階　中会議室

お問い合わせ
がん相談支援センター
がん医療相談室
☎082−257−1525

食道がんの基礎と治療
10月22日（水）14:00～15:00　講師：消化器外科診療准教授 檜原　淳

抗がん剤と分子標的薬の基礎について
11月20日（木）13:30～14:30　講師：薬剤師　須川　涼

がん患者を支える家族のセルフケア
12月18日（木）13:30～14:30　講師：がん看護専門看護師 石原　美紗子

前立腺がんの基礎と治療
2015年1月15日（木）14:00～15:00　講師：泌尿器科講師 亨島　淳

ご意見やご感想は下記へお願いします。
広島大学病院　特命広報・調査担当　〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号　☎082−257−5418

14103.5